

会 議 録

会議名 (審議会等名)		第 4 回相模原市文化財保存活用地域計画作成検討協議会		
事務局 (担当課)		文化財保護課 電話 0 4 2 - 7 6 9 - 8 3 7 1 (直通)		
開催日時		令和 6 年 1 0 月 2 8 日 (月) 1 0 時 0 0 分から 1 2 時 0 0 分まで		
開催場所		相模原市役所本庁舎第 2 別館 3 階 第 3 委員会室		
出席者	委員	1 6 人 (別紙のとおり)		
	その他	2 人 (コンサルタント)		
	事務局	4 人 (生涯学習部長、他 3 人)		
公開の可否		<input checked="" type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 <input type="checkbox"/> 一部不可	傍聴者数	0 人
公開不可・一部不可の場合は、その理由				
会議次第		1 あいさつ 2 議 題 (1) 相模原市文化財保存活用地域計画の本文について ア 序章～第 3・7・8 章の修正点の確認 イ 第 4 章 (将来像と基本方針)、 第 5 章 (一体的・総合的な保存活用)、 第 6 章 (保存活用の取り組み) の本文検討 (2) その他		

議 事 の 要 旨

主な内容は次のとおり。(○委員発言 ●事務局発言)

1 あいさつ

文化財保護課長、会長より挨拶を行った。

2 議 題

- (1) 相模原市文化財保存活用地域計画の本文について
事務局から資料に基づき説明を行った。

◆以下、質問及び意見

- (1) 相模原市文化財活用地域計画の本文について
ア 序章～第3・7・8章の修正点の確認

特に意見なし

イ 第4章(将来像と基本方針)

- 4-2ページの「異質・多様性への寛容さ」という言葉は違和感を覚える。例えば「異質・多様性への理解」程度にした方がよい。

●修正させていただく。

- 図4-1の外側にある橙色や茶色の丸はどのような意味合いで示されているのか。

- 個人のウェルビーイングだけではなくて場としてのウェルビーイングが大切という示し方で、個人のウェルビーイングが向上していくことによって地域への還元をしていくという考え方に人々は変わっていくことを示した。

- 緑の丸とオレンジの丸と外側の余白部分にも地域の一体感が出ている、3つあるのかと思ってしまうのでわかりやすくしてほしい。

- 田名向原遺跡実行委員会の現場では応募者が少ない。生きがいをどうやって繋げるのか説明があればよい。

- まずは将来像として作り、これから説明していく基本方針などで、どのような取り組みに繋げるのかを具体的に出していく構成になっている。

- 今後を考えると、文化財保護もしくは活用することを主眼とした組織を作るといふようなことを文言として残す必要はないか。

- 今現在文化財保護課という名前だが、護っているだけというニュアンスが大きいので、課の名前については庁内で検討させていただいている。

- 補助制度というのが今後所有者の方々、団体の方々は関心があるところだと思うが、内容が重複している印象があり、うまく整理してほしい。
- 文化庁との協議の中で、重複している部分について再度整理するよう指導されている。本文の黒丸がいくつかある部分に関しましては大幅に変えさせていただこうと思っている。
- 保存活用基本方針というものが出ているが、協働というのであれば、市と市民の協働ということを条例で謳っておかないと今後の取り組むべき課題に載せることは難しいのではないかな。
- 条例の目的・趣旨の中で市民は文化財の保存、活用に対して協力というような書き方をしていたかと思う。すぐにお答えすることは難しいので検討させていただきたい。
- 番田の神代神楽のように無くなってしまったものに関し、今後復活させるのか、記録保存して留めていくのかなどの姿勢がわかれば教えて欲しい。
- ケースバイケースになってしまうと思う。例えば番田の神代神楽については、道具関係は博物館の方に寄贈していただいて、一括で資料調査をしている。そういったものをきちんと残していくことによって番田の神代神楽があったということの後世に伝えていくといった取り組みになると思う。

第5章（一体的・総合的な保存活用）

- 5-5ページの「相模川が育む先史・古代文化の流れ」には勝坂の有鹿が載っているのですが、できたら岩楯尾も入れて欲しい。また、城山の春林横穴についても相模川の主流にある神奈川県最北最大の横穴群と思われ、検討して欲しい。
 - 5-10ページの「武相境の中世伝承と祈り」には小松城を入れて欲しい。
 - 5-14ページの「津久井城と黄金伝説」に向得寺なぜ入れているのか。
- 向得寺を再興したのが津久井城城主の内藤と言われており、かつ向徳寺の住職が津久井城城主の軍師をやっていた伝承があるため入れている。
- 5-18ページのところで梅宗寺だとか法性寺だとか、あるいは相模川の関係で日枝神社の標石があるが、これは甲州街道との関係か。
- 小原宿本陣も使っている高遠藩の石工がかなり相模国に入ってきていて、その高遠藩の石工が造ったのが梅宗寺や法性寺などに残されている。
- 5-23ページの近代遺産で、畑地灌漑用水路も指定登録文化財で我が国最大の畑地灌漑用水路なので検討して欲しい。
- ストーリーというものが全部に出てきたが、一般的にこういう表現なのか教えて欲しい。
- 日本遺産も色々な文化財群をストーリーという言葉を使って組み立てをして、認定をしている。

○5－4ページの先史・古代辺りの川尻八幡宮のところに横穴式石室があるが、相模川で一番奥の古墳と思われるので、その辺りをドットだけでも落として欲しい。青山開戸遺跡など、先史古代文化の相模川の縄文文化を通して取り上げて欲しい。高遠の石工の話があったが、田名の上流側の崖下に石切り場があるのを見た。あの時代はどのくらいか。

●江戸時代くらいではないかと言われている。

○恐らくその石材で作った石造物が、褐色の鎌倉石に似た色合いの石造物がいくつかあった。その辺も取り上げて欲しい。軍都関連で、青根の防空監視哨や相模湖北側のものもどこかで触れて欲しい。

○ストーリーについて、5つの括りで市民の文化財に対するイメージと合致するのか。文化財を発信する手段としては非常に面白い発信だと思うが、保存の考え方とした場合、例えば軍の遺産はどこに当てはまるのか。5つのストーリーが地域の人々が考えている認識と合致するのか。

●例えば第1章第3節で歴史的環境だとか、第3章の地域遺産の概要を入れさせている。それを具体的に示したのが5章のストーリーとなる。地域の方々が見たときに私の地域が入っていないというのが出てくる可能性が高いと思っている。ストーリー自体は書こうと思えばいくらでもできるかと思うが、その中で相模原市の歴史を説明する章のところから紐づく形で今回この5つを設定させていただいた。

○5－6ページだが、田名向原遺跡のような大切な遺跡にはしっかりとした学芸員がいなければいけないのではないか。

●例えば6－111ページで、関連文化財群とは別に「(15) さがみはら地域遺産を守る担い手の確保」の中で、「46 学芸員等の人材確保と育成」を入れさせている。

○3構成文化財の掲載の基準はあるのか。

●伝承の部分はどこまで取り上げるべきか悩ましかったところで、ストーリーに直接関係するものであれば触れていくべきかと思うし、足りていない部分があれば検討していきたいと思う。

○5－4ページの構成文化財の中で旧中村家住宅主屋が入っているが、相模川先史・古代文化の流れとそぐわない。

●勝坂遺跡が大山柏先生という方が大正15年に調査をしたのですけれども、調査のきっかけになったものが中村さんの畑から出てきた2点の縄文土器、それを大山先生が見て調査に乗り込んできたというところで中村家住宅を入れさせていただいた

○それであれば少し説明を入れた方がわかりやすい。

○5章の中で各ストーリーの中に取組というのがあるが、いきなり取組が出てきて

尚且つ重点取組で五十何番とか飛んでいる番号が出てきているところが少し違和感があった。この重点取組というのが6章にないというのも精査が必要である。

●並びについて修正をしていきたいと思っている。

○5-16ページの景勝の桂里というストーリー(1)の冒頭の文章は不要なので、「戦国時代」から始めるとよい。

事務局から5章第3節の説明

○文化財が集中しているこの地域はまとまりとして捉えて活用していくという考え方でご了承いただきたいがよろしいか。(各委員了承)

事務局から5章第4節、第5節の説明

○市民提案型の文化財の登録はある程度見込みや予想などはあるのか。

●新しく条例を設置する場合と今の文化財の条例を改正する場合、それから要綱で取り組む場合というのがある。あとは地域遺産の認定、自治体が地元の文化財群を説明立てて認定を申請し、教育委員会が審査の上認定する。それに対して補助金制度があるものとなないものになる。あとは認定されたストーリーをパンフレットやチラシを作るなどの取り組みで周知していく、というようなものになるかと思う。

○川崎市が似たようなことを先行してやっていて、手続き的には割と簡単にできてしまうため、多くの地域遺産が上がってきている。その代わり補助制度はない。そうしたことも含め、よりよい方向に向かって欲しいと思う。

(2) その他

次回日程等について事務局から説明を行った。

以 上

相模原市文化財保存活用地域計画作成検討協議会委員出欠席名簿

	氏 名	所 属 等	備考	出欠席
1	馬場 憲一	法政大学名誉教授		出席
2	内川 隆志	國學院大學教授	会長	出席
3	大貫 英明	相模原市文化財研究協議会 会長		出席
4	篠崎 重雄	相模原市民俗芸能保存協会 会長		出席
5	曾根 勝	特定非営利活動法人 建築文化研究会 副理事長		出席
6	飯田 覚隆	宗教法人 無量光寺 代表役員		欠席
7	野口 浩史	公益財団法人 神奈川県公園協会		出席
8	小林 幸治	小原宿活性化推進会議 会長		出席
9	石原 朗	公益社団法人 相模原市観光協会 専務理事	副会長	出席
10	永山 一雄	公募市民		出席
11	横山 淑子	公募市民		出席
12	谷口 肇	神奈川県教育委員会文化遺産課調整・世界遺産登録推進グループ 主幹		出席
13	秋山 幸也	相模原市立博物館 総括副主幹（学芸班担当）		出席
14	藤原 啓	相模原市教育委員会学校教育課（指導主事）		出席
15	鈴木 一広	相模原市観光政策課 参事（兼）課長		出席
16	柴田 貴弘	相模原市建築政策課 課長		出席
17	田加井 英希	相模原市文化振興課 課長		出席